

問一

近代科学は、観念的な思考から経験の観察への転換により生じたと見なされがちだが、実は雑然とした日常的経験に依拠してきた認識への疑念に由来しているから。

（解答欄 3 行）

問二

実験は、雑然たる日常的経験をただ観察するのではなく、原理的構想の妥当性を検証するために条件を整え、人が感受するものを装置によって数值的に把握することで正確に理解しようとする、人工的な経験であるから。

（解答欄 4 行）

問三

日常の経験に科学的検討を加えた寺田の研究には、華やかで心躍る魅力を湛えた経験をいとおしみ、世界の単純化と抽象化による近代科学からそれらが捨象されてしまったことを残念がる気持ちがあるかという意味。

（解答欄 4 行）

問四

トレスアン伯爵の議論は、物理学研究に見せかけてはいても、実際はあくまで直観に基づく推論に過ぎず、日常的経験から離脱した近代科学の言説とは言えないから。

（解答欄 3 行）

問一

良い批評家は、自らの好みや思考の傾向を相対化して、説得力を生むための梃子となすべく、説明や表現に工夫を凝らしつつ批評の理路を明確化しようと努めるから。（解答欄 3 行）

問二

作品の内実を吟味し、核心を衝く端的な言葉を探り当てるべき批評が、おごなりの言葉で作品を評価して済ますのは、批評の本来的営みを放棄することだということ。（解答欄 3 行）

問三

芸術作品の核心を端的に言葉で表現しようとする批評は、作品の理解の深化に資するが、作品の無尽蔵な豊かさを追究する批評それ自体がひとつの作品でもあるから。（解答欄 3 行）

問一

私に少しでも憐れみをかけるならば、この世に戻り私と一緒に露のようにはかなくこの世から消えてください。  
（解答欄 2 行）

問二

少将の求婚に応じて、応じないで継母のもとに留まっても、実母のいない姫君に幸せはないということ。  
（解答欄 2 行）

問三

出家して尼になっても、継母のいる邸から離れることはできないだろうから、ひたすら死んでしまえるような方法があればいいなあと思いなさる。  
（解答欄 3 行）